

(令和7年度)  
自己評価書

園番号	園名
702	奈良市立都祁こども園

702奈良市立都祁こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の取り組み、方針を周知する。</li> <li>職員の適正に応じた、配置を行う。</li> <li>縦横（各クラス・長時間・子育て支援・特別支援・調理室）の連携を密にする。</li> <li>目標達成に向けて、教育方針の周知や基本方針に基づいた保護者アンケートを実施すると共に、学校評議員からも意見を聴取し、教育活動の評価を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に全職員に方針を示し、教育目標に即した視点を共有し確認した。</li> <li>0歳児から就学前までの育ちを「奈良市こども園カリキュラム」を基に、全体的な計画の作成に取り組んだ。</li> <li>園の取組や教育保育活動、子どもの育ちを伝えるために適宜HPに掲載し、でいあシートについてはコドモン配信や玄関に掲示し、保護者からの感想も聞けるようにアンケート機能を活用した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者間で教育・保育目標の共通理解を図った。</li> <li>0～5歳児の育ちを見通した全体的な計画の作成に取り組んだ。</li> <li>取組や教育保育内容を、コドモンアプリやHP、掲示などで保護者に発信したことで、保護者アンケートからも概ね肯定的な評価を得ることが</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初、職員間で教育方針の共通理解することの重要さと、日々の保育の振り返りの中での方針を確認し、意識を常にもつことが必要である。</li> <li>園の取組や教育保育活動の重要さを周知できるように、引き続き、保護者や地域にも発信していく。</li> </ul>
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼保連携型認定こども園の特性を理解し、教育・保育要領や「奈良市こども園カリキュラム」の理解を深め、計画や保育実践に反映させる。</li> <li>園内研修やブロック研修会への参加等、年度当初に計画し、参加しやすい体制を整え、職員の資質向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの姿を振り返り、語り合う場を定期的に保障していった。</li> <li>園内公開保育では、研究主題に沿って子どもの見方、保育者の援助等について保育者間で深く話し合えるようにした。</li> <li>職員にステージ別研修シートを配布し、学期毎の提出を呼びかけることで、各種研修に参加することへの意識向上につながった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育内容に関する園の取組については、保護者アンケートでは概ね肯定的な評価を得ることができた。</li> <li>公開保育や他園への公開保育に参加することで、保育内容や環境構成の工夫等、保育に活かしていた。</li> <li>研修においては参加しにくい担当職員もいたので、動画研修では、園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内外の公開保育への積極的な参加を呼びかけ、環境構成や子どもの遊びの見取りの力を育成していく。</li> <li>子ども自らが主体的に活動できる環境構成や保育者の援助について、職員の資質向上に努めていく。</li> <li>研修会やブロック研修会等、今後も計画的に実施し、保育者の資質向上に努めていく。</li> </ul>
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色のある園行事の精選と実践をする。</li> <li>子ども達が主体的に活動し合い、生活が豊かになるように取組の過程を重視する。</li> <li>園行事のねらいについて、職員で共有し、行事を通して得られる子どもにとっての学びや育ちにしたいことについて確認しながら実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園における行事の意味や経験が子どもたちの何に繋がるのかを再確認したことで、子どもの育ちや成長に沿った内容で子ども達は生き生きと活動することが出来た。</li> <li>園行事等の内容については、子どもの育ちを確かめ、昨年度の振り返りを活かした内容になるように計画した。また実施後は振り返りを行い、次回や次年度に活かせるようにした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事について職員間で検討し、子どもの育ちに即した内容重視の行事を行った。</li> <li>園児の思いを大切にしたい行事になったことで、主体的な姿も見られ、多種多様な充実した体験することができた。保護者アンケートからも、保護者の理解の上、高い評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事毎の評価反省を踏まえて、さらに園行事や内容の精選を図り、子ども達がより豊かな経験ができるよう先の見通しをもち、立案していく。</li> <li>2学期に行事が集中していることから、来年度に向け、日程や内容を職員で再検討していく。</li> </ul>
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者が人権感覚を磨き、日々の保育や生活の中で、命の大切さや一人一人が大切な存在であることを意識できるような取組を進める。</li> <li>一人一人の子どもを大切に思い丁寧に扱われるよう全職員が、同じ意識で保育教育を行えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育の指導計画に基づき、正しいものの見方や考え方ができるように、丁寧に保育をした。</li> <li>園児一人一人が様々な表現方法で表す思いや気持ちを大切にできたことで、先生や友達に親しみの気持ちをもち、自分の思いをのびのびと表現しようとする姿がより多く見られるようになった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権についての保護者アンケートでは、昨年度より肯定的な評価が多かった。また、「日々子どもにきちんと向き合ってもらっている」「丁寧に子ども達にかかわってもらっている」という意見も表記されていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者自身も保育の中で言動や子どもに対する言葉かけ、日常の会話等、人権を常に意識する。</li> <li>一人一人を大切な存在として受け止め、大切に思う気持ちを育てる取り組みを継続していく。</li> </ul>
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児一人一人の実態を職員間で共有する。</li> <li>プライバシーを守った中で、保護者が話しやすいような環境を整え、家庭との連携を密に図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな事柄でも、気になることがあれば職員間で共有し、課題解決に向けて様々な方法を考え実行してきた。</li> <li>期間を設けて個人懇談会を年2回開催し、就労している保護者も無理なく参加できるようにした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラスの実態や課題を出し合い、その都度解決に向けて力を尽くし、その後の経過についても職員で共有した。</li> <li>保護者アンケートでは、気軽に相談できるような雰囲気や体制について、昨年度より評価が高かった。</li> <li>職員で共通理解し、対応した。</li> <li>職員間で情報共有が活発に行われた。</li> <li>職員が悩みを抱え込まないように共有した。</li> <li>地域の小中学校と情報共有を行った。</li> <li>担当が主となり、連携した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き職員間で気付いたこと等、小さな事柄でも共有できるようにしていく。</li> <li>保護者との信頼関係を築くと共に、保護者の思いに耳を傾け、安心して預けられるようにする。</li> <li>日頃より、子どもの表情、態度、言動に細やかな対応をし、その場の状況を丁寧に見取る。また、一人一人の思いを聞いたり、予想したりしながら、一人一人が納得できる解決方法を探る。</li> <li>地域の一小一中一園の役割として、引き続き地域の子どもの姿をみんなで見守っていけるように、連携を図る。</li> </ul>
		② 教育相談・こども理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	<ul style="list-style-type: none"> <li>対処方針や指導計画が明確である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議等で検討を重ねた。</li> </ul>	B		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃より実態把握・早期発見に努めている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの言動を把握し、情報共有を行った。</li> </ul>	A		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級の状況を園組織として共有できている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気になることや課題を話題にしやすい雰囲気づくりをした。</li> </ul>	B		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域と連携できている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で子ども達を見守ろうとする姿勢や取組を大切にし、地域の小中学校とも連携を図る。</li> </ul>	A		
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援コーディネーターを中心として、一人一人を丁寧に観察し、共通に子ども理解を深めて具体的な指導をする。</li> <li>特別な支援を要する園児も含めて一人一人が大切な存在であるということを根底に置き、クラス運営をする。</li> <li>支援計画を作成し、家庭や関係機関と密に連携を図りながら支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援を要する園児の特徴や支援方法などを職員間で情報交換し共通理解すると共に、園全体で共通の関わりができるようにした。</li> <li>各関係機関と連携を図り、スムーズな支援ができるように努めた。</li> <li>特別支援コーディネーターを中心に一人一人に合わせた支援ができるように、担任・支援員等その都度検討した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との信頼関係を構築することで、発達相談を受ける子どもが増えた。</li> <li>特別支援教育コーディネーターが、相談を受けたり特別支援COの立場から助言をしたりと、担任と一緒に考え関わったことで、保護者も安定した子どもにも良い影響が現れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援を要する子どもが増加する傾向にあるので、研修を重ね、体制を整える等適切な支援を行う。</li> <li>対象児または園児一人一人に沿った視覚支援や、様々な支援方法を引き続き探っていく。</li> </ul>
		② 個々に応じた特別支援教育の内容					
③ 指導方法の工夫改善							
④ 家庭との連携							
⑤ 関係機関との連携							

(令和7年度)  
自己評価書

園番号	園名
702	奈良市立都祁こども園

702奈良市立都祁こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>園ビジョンについての考えを明らかにし、園児・保護者・職員にとって、安心・安全な園経営を目指す。</li> <li>円滑な園運営のために、職員の資質と意欲を見極め、適正な配置と事務分掌への分担を行う。</li> <li>会議（職員・乳児・幼児等）や、日々の保育の振り返りの中で、子どもの育ちや指導計画・行事・クラス運営での課題等、意見を出し合うと共に、職員で共有できるようにする。</li> <li>働き方改革を意識しながら職員の心身の健康状態を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園ビジョンを作成し、園の基本柱を明確化した。</li> <li>教育目標や研究主題を達成できるような保育内容であるか、日々の振り返り、会議等で知らせ意識しながら取り組めるようにした。</li> <li>職員会議等では、事前に案件を知らせたり、参加しやすい時間帯を選び会議を行ったりしながら、時間を短縮しながらも有意義な内容になるように努めた。</li> <li>お手伝いボードの活用や、定時退勤の呼びかけをし、時間外勤務時間の削減と、職員の健康維持に努めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が協力し合って役割を果たすことができているのかを確認しながら、取り組むことができた。</li> <li>会議時間を確保するために職員配置に配慮したり、給食会議や園内ブロック研修などの機会を捉えたりなど、工夫した。</li> <li>休憩時間の確保や定時退勤の周知等については、朝礼や個別に声をかける等、意識するようにつながったことで、突発的な時間外勤務の減少につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の研修成果をまとめたり、保護者アンケートからの結果からも、保育や保護者への連携や啓発方法を見直したりしながら来年度に活かしていく。</li> <li>様々な働き方の職員がいる中で、情報共有についての課題がある。他園での工夫も取り入れながら進めていきたい。</li> </ul>
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>「奈良市こども園カリキュラム」を基に、目指す子ども像に迫る教育・保育実践を行う。</li> <li>園内研修を計画的に行うと共に、ブロック研修会の他園の公開保育への参加、でいあシートの作成など資質の向上に努める。</li> <li>各種研修会での学びを共有したり、市内外研修（オンライン、動画配信も含む）にも積極的な参加ができるような体制づくりを行った。</li> <li>研究主題やでいあシート研修を通して具体的な子どもの姿を共有し、子ども理解に向けて子どもの見取りについて学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者の資質向上を目指し、定期的な園内研修会や参加した研修会での学びの共有、オンライン研修やオンデマンド研修の大型テレビでの実施やQRコードの利用など様々な職種の職員が参加できるように工夫したことで、意欲的に学ぼうとする姿勢や研修への参加率の向上につながった。</li> <li>でいあシート研修については、提出前の園内のシートの検討と、研修前の同グループの他園のシートについて研修する機会など、2度設けることで子どもの育ちの読み取りや、3つの資質能力についての理解につながった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン研修や期間を設けての動画配信の研修等、時間に縛られない研修が増え、園に居ながら多数の職員が同時に同じ内容の研修に取り組むことができた。</li> <li>園内外研修の参加、保育の振り返り、研究協議等、保育の実践力の向上につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員の資質向上を目指して、研修体制を整え、参加する職員に偏りがでないように計画していく。</li> <li>研修での学びの共有についても、参加していない職員も共有できるように検討していくと共に、実践に活かせるような働きかけも行う。</li> <li>子ども理解を深めるためにも、引き続き園内でのでいあシート研修を実施していく。</li> </ul>
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施					
		③ 園外の研修への積極的参加					
		④ 園外研修内容の共有					
		⑤ 研修成果の普及					
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安全管理マニュアル」を見直し、全職員で協議し、危機管理体制を整える。</li> <li>避難訓練を毎月実施し、次回に見直せるように反省評価を行う。</li> <li>園児の安全や健康にも常時配慮し、日々の安全点検に務める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安全管理マニュアル」については全職員で検討した。</li> <li>防災計画、指導計画に位置付けている避難訓練については、その都度反省評価し、実際に想定した避難方法になるように検討した。</li> <li>警察・地域安全協会・消防署など関係機関との連携を図り、安全教育につなげた。</li> <li>園児の安全面については、早急に対応した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練を指導計画に位置付け、実施後職員で振り返ることで、次回に活かすことができた。</li> <li>保育室内外に拘らず、子ども目線にたつての安全点検を実施し、問題点については早急に対応した。</li> <li>AED器具の扱い方や救急方法についての、救急救命士からの講義など、実りある実践ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理意識を全職員で高め、非常時の行動を全職員が身に付ける。</li> <li>園で実施している危機管理や安全対策等、定期的に保護者へ発信し、園での取組を知ってもらったことで、昨年度よりアンケートの評価が高かった。</li> </ul>
		② 防災計画の立案					
		③ 危機管理体制の整備					
		④ 安全指導の工夫改善					
		⑤ 家庭との連携					
		⑥ 関係機関との連携					
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる感染症について正確な情報を得て園児・保護者・職員の安心と安全を守る。</li> <li>園児の健康状態の把握を行い、家庭と園との連携を強化する。</li> <li>食物アレルギー児へ対応について、マニュアル通りに医師の診断のもと家庭と園との連携を図る。</li> <li>必要な情報提供を速やかに行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症に対する注意事項や正しい知識を身につけ、全職員で研修内容を共有すると共に、子ども自身も身につけられるような工夫や、保護者への協力も願った。</li> <li>感染症対策として情報の提供と共に、「感染症マニュアル」についても職員間で共通理解を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いうがいなど基本的な感染症予防については子ども達自ら取り組むことができ、基本的な感染症対策を日常的に行なった。</li> <li>保護者への理解と啓発を行い、誤食等もなかった。</li> <li>保育中のケガや疾病に関しても連携を取り子どもの健康安全に努めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児や職員の健康管理安全管理に心掛ける。</li> <li>園児の心身の健康について、相談しやすい雰囲気を中心掛ける。</li> <li>園児への健康に関する啓発活動を行う。</li> </ul>
		② 心のケアや健康相談の体制の整備					
		③ 健康観察、健康管理能力の育成					
		④ 関係機関との連携					
		⑤ 昼食（給食等）の衛生管理					
	(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の取組や子どもの活動の様子などを適宜HPに掲載し更新回数を増やすと共に「でいあシート」やドキュメンテーションについても保護者の目のつくところに掲示し、園教育への理解につなげる。</li> <li>校種を超えての連携を図る。</li> <li>地域の運営委員会の方々や評議委員の方々とも交流や連携を図り、園教育・保育への理解につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との交流を大切にしながら、園児の育ちにつながる取り組みの精選に努める。</li> <li>園で作成している、園だよりやクラスだよりを小中学校に配付し、園の取組や子どもの育ちを発信した。</li> <li>校種を超えての交流を計画した。特に小学校とは5歳児クラスを中心とした、就学時の段階が滑らかなような取組を、昨年より多く実施することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域にでいあシートや、ドキュメンテーションをHPに掲載したり、玄関先に置くなどして園の様子を発信した。</li> <li>地域で決める学校予算事業では、日々の保育とのつながりを意識するようにした。</li> <li>園小中の連携では、毎月1回の管理職会議に参加し、情報共有を行うことができた。園状況を理解してもらったり教育保育について伝えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との交流を大切にしながら、園児の育ちにつながる取組を実施し、保護者への「地域で決める学校予算事業」について周知に努める。</li> <li>小学校や、中学校、高校との連携についても引き続き立案し、実施に繋げていく。</li> <li>今年度は小学校との交流を特に数多くもつことができた。5歳児が校長先生に親しむの気持ちをもたせ、</li> </ul>
		② 園(保育)公開					
		③ 小学校との接続・連携					
		④ こ幼保との連携					
⑤ P T A ・保護者会の活性化							
⑥ 地域教育協議会との連携							
⑦ 学校関係者評価の実施							
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内の消毒・換気等を徹底し、清潔を心掛ける。</li> <li>遊びの環境を見直すと共に、遊具点検を毎月行う。</li> <li>危険個所の把握と対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設や遊具は定期的に点検を実施すると共に、不具合が生じた際は早急に対応し、環境整備を実施したり、必要に応じて修理や補修修繕等を幼保こども園課に相談、依頼した。</li> <li>月1度の遊具点検を職員が当番で点検した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児にとって安全で過ごしやすい環境であるか、常に新鮮な感覚や新たな目線で点検し、速やかに対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期点検を徹底して行ない、子どもの目線や動線を意識した環境を整える。</li> <li>送迎する保護者が使用する場も点検していき、安全管理に努めていき</li> </ul>	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> <li>公文書の適切な処理と安全な保管場所について、職員に周知すると共に、個人情報の管理についても共通理解し、書類、データ、写真などの管理を徹底する。</li> <li>個人情報の取扱いについては「セキュリティポリシー」に則り、厳重な管理の徹底を図り、定期的に確認することで、職員の意識向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公文書や個人情報を記載した書類等については、厳重に取扱い、鍵付き保管庫の利用や、情報持ち出しの禁止など、マニュアルに基づいた管理保護の徹底に努めた。</li> <li>情報セキュリティ媒体や、デジタルカメラ監理簿などの記入を徹底した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報については、常時鍵付き保管庫に格納する。</li> <li>個人情報に関するデータの保管や管理が徹底でき、セキュリティー研修を受講した職員が多くなったことで、情報漏洩、記録媒体についての意識が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員全員が、個人情報保護法に反することが無いように意識をもって勤務できるように、引き続き啓発に努めていく。</li> <li>ICカードの保有者が多くなったことで、引き続きパスワード等の漏れが無いように努めていく。</li> </ul>	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						
	⑤ 電子媒体の管理						